



会社のデスクでも、こっそり見ている人はかり

フェイスブックほか

ツイッター

ソーシャルネットワーク

実例リスト  
付き

支配人よりお詫言  
様各位

はウェスティンホテル東京へ格別のご配慮を賜り、深く御礼申し上げます。  
並び、弊社のアルバイト従業員がお客様のレストランへ来店情報をブログ等で流  
年1月12日に判明いたしました。  
貴の苦情及びお客様には多大なご迷惑とご心配をおかけいたしましたこと、深くお詫  
について  
は社員アルバイトにかかわらず全ての従業員は、入社時にお客様情報の守  
った上、誓約書への署名をしております。しかしながら、当該従業員は個人のソ  
モのお客様がホテル内レストランへ来店されたことについて発信していたことが判  
ウェスティンホテル東京  
が発表した謝罪文

# 炎上で

# あなたは会社をクビになる

本物の「つぶやき」なら、聞き逃す人の方が多い。だが、インターネットでの「つぶやき」は世界中が聞いている。他愛ない投稿が、ごく普通の人生を狂わせる。そんな大変な時代がやってきてしまった。

## すべて晒されてしまっ

「昨秋に滋賀県大津市で起きた中学生のいじめ自殺事件では、ツイッターで「加害者に制裁を加えるべき」という声が高まった。その結果、未成年の加害者の名前や顔写真などが突き止められて晒される「炎上」が起きました。

一般の人でもSNSで不用意な発言をすれば、名前はおろか勤め先や住所、友人関係まで簡単に調べ上げられてしまう。誰でもターゲットになりうるのです」  
（IT専門誌記者）

スマートフォン普及で中高年の利用者が急増し、企業もPRのために活用を始めているSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）。だが、SNSでの発言から「炎上」に巻き込まれると、顔写真をばら

「彼女のフォロワー（定期的につぶやきを読んでいる人）は100人程度で、決して多いほうではなかったのですが、何らかの形で発言が稲本選手らのファンに目にとまり、広まってしまった。どうせ読んでいるのは知り合いだけ、と気軽に個人情報や他人の秘密を書き込む人が多いですが、これが大間違いなのです」  
SNSに詳しい日経デジタルマーケティング・小林直樹記者）

「直接的な経済的損失はありませんでしたが、二度と

「直接的な経済的損失はありませんでしたが、二度と

起きにくいよう、個人情報扱いの見直しに取り組んでおります。現在、従業員本人は働いておりません。詳細は公表できませんが、厳正な処分と言え、ご想像がつくかと思えます」  
（ウェスティンホテル広報担当）

プライバシーを暴露された顧客と、信頼を損なった企業、そして自分の行動が原因とはいえ、あらゆる個人情報暴露を暴露され、処分された女性従業員。全員が大きな損害を被った悲惨な結末である。実は、彼女の他のつぶやきにはこんなものもあった。「今日の客は」日銀の総裁と日産のCEO たぶん円高への対応と中国と今後の日本経済についての密談じゃないかな？」

社運を賭けた商談が、たまたま居合わせた人にSNSで暴露され、破談になってしまったら——不可抗力とはいえない、関係社員の処分は免れないだろう。IT関連案件に精通した、弁護士法人エルティ総合法律事務所所長・藤谷護人弁護士が警告する。

「これまでは、社内ネット

撒かれて批判と嘲笑の的になり、会社へ苦情が殺到、社長は謝罪を迫られ、拳げ句クビになる——こんな悲劇も決して他人事ではない。少し前の話になるが、最も典型的な事件が「ウェスティンホテル事件」だ。

「稲本潤一と田中美保がこ来店 田中美保まじ顔がちやく可愛かった今夜は2人で泊まるらしいよ」  
11年1月、元サッカー日本代表の稲本潤一とモデルの田中美保が、ウェスティンホテル東京での密会をSNS「ツイッター」でアルバイトの女性従業員に暴露され、スポーツ紙でも報道される大騒動になった。

発端となったこの「つぶやき（ツイッターへの書き込み）が投稿されたのは、深夜11時前。だが、そのわ

ワークで重要な情報にアクセスできる社員を制限すれば、企業情報は管理され。しかしSNSは社外のサイピスのため防止策が効かず、社長から一般社員まで誰もが炎上の原因になる。新技術に対するルールも教科書も未整備で、防止には公私

## 警察顔負けの「捜査力」

時には、知人や同僚に話せない本音のはけ口にもなるのがSNS。大規模な炎上でなくとも、恥ずかしくざる理由で社会人生命を断たれる例は枚挙に暇がない。「新人アルバイトの女の子が肉食系で、何人もの男性社員と関係していたうえ、それを匿名のツイッターで

「〇〇部の彼は下手だった」などとつぶやいていた。書き方はばかしていましたが、社員が見れば分かる内容で、1年後、ついに彼女を採用した人事部長がクビを宣告しました。

ところが、実は真つ先手を出していたのはその人事部長自身だった。彼女は腹いせに当時の様子を全て

混同の禁止を徹底するほかないのが現状です。

SNSは、新聞や雑誌と同じ力を個人に与えるもの。他人が知らないことを書き込む喜びは誰にもありますが、それが自分一人はおろか、多くの人に損害を与える可能性があるのです」

克明にバラシ、部長は会社に来なくなってしまうした」  
（34歳女性会社員）  
自分の周りに限ってそんなバカなことはあるまい、と思う読者もいよう。しかし気付かないうちに、SNSで他人の個人情報まで垂れ流してしまう人も、呆れるほど多いのである。

世界最大のSNS、フェイスブック。会員数は全世界で10億人以上、日本人会員も2000万人近い。このフェイスブックに特有の機能が「タグ付け」だ。写真掲載する際、写っている人物の名前の「タグ」を写真に登録できるのである。名前前で検索すれば、本人の顔写真が即座にヒットす



る。ウェスティンホテル従業員の写真がすぐに出回ったのも、これが原因だ。「職場の先輩と飲みに行き、そのとき撮った写真を自分のフェイスブックに載せて、先輩の名前のタグを付けたんです。すると数日後、先輩が上司にこっぴどく叱られていた。実は先輩は、仕上げなければいけない仕事をサボって出かけたらしく、それが僕の写真の

タグを通して広まり、上司の耳に入ってしまったんです」(29歳男性会社員)  
この程度の「プチ炎上」ならまだいいが、重大な情報漏洩や暴言による本格的な炎上事件では、フェイスブックから、自宅を特定されるというケースもザラ。時には、傍らの車のボンネットに映った風景や、瞳に映りこんだ照明器具の形から

撮影場所を割り出すというから、警察顔負けである。もうひとつ気をつけるべきは、ここ半年ほどで利用者が増えた「LINE(ライン)」というSNSだ。これは携帯電話に登録される

# 「LINE」の落とし穴

「LINEでは、友達の名前が友達候補」として表示されます。つまりこのシステムは、個人情報のお塊である電話番号の出身を、運営会社に教えることによって成り立っているのです。

かもしれない。「今のところ、SNSを起点とした炎上事件にはパターンがある。炎上を未然に防ぐには、過去の事例をまづ知っておくことが重要です」(前出・小林氏)  
半永久的に残り、不特定多数の目に晒されるSNSでの投稿。自分の個人情報はもちろん、他人の話も不用意に書き込まないようになれば、立派な炎上対策になる。大事なことは手紙や日記帳に書いてみるのも、たまにはいいものだ。それにしても、なぜ「炎上」は起こるのか。ある炎上事件のインターネット記事に寄せられたコメントには、こう書かれている。「炎上させる側は」別に正義で動いてる訳じゃないから社会的に正しいとか正しいのかはどうかはどでもいいんだよw/大半は「なんかおもしろいし、叩く為の材料も揃ってるし潰しとくかww」って感じだろww  
(注・wは「笑」の意)  
こんな匿名の悪意から身を守るには、SNSでも「大人」の自覚が大切だ。

## 主なSNS炎上事件

情報漏洩型	<b>アディダス事件(11年5月)</b> 同社販売店の新人店員が、プロサッカー選手ハーフナー・マイクの来店をツイッターで暴露し中傷。ウェスティンホテル事件と同様に店員の個人情報が暴露され、会社が正式に謝罪した。店員は後に退職
	<b>小山記念病院事件(12年5月)</b> 茨城県の病院の女性職員が、来院した鹿島アントラーズ選手数名のカルテについてツイッターに書き込む。病院はチームに謝罪。「職員は自主退職しております」(同院)
暴言・放言型	<b>東京電力事件(11年4月)</b> 同社社員が「東電社員の給料をカットすれば福島も柏崎もメルトダウンするが、いいのか」とツイッターに書き込み炎上。自宅や本名、顔写真を暴かれる。社員は厳重注意処分
	<b>ミスタードーナツ事件(12年9月)</b> 半額セール開催中、店員があまりの多忙さに「アホみたいに買っていくバカどもなんなんだよ」「貧乏臭い」「きもい」とつぶやき炎上。名前や顔写真が暴かれる
悪ノリ型	<b>採用試験中継事件(11年8月)</b> IT企業社員が採用面接の様子をSNSヘリアルタイムで書き込み、志望者を「噛みまくり」「声が小さい」と論評し炎上。会社はこの経緯を「虚偽の書き込みだった」と説明している
	<b>日本新薬事件(11年9月)</b> 同社社員が「睡眠薬ハルシオンの後発品(ジェネリック)を飲み会で上司の酒に入れた」とツイッターに書き込み炎上。会社は謝罪。「内容は話せないが、関係社員に処分を下した」(同社広報部)
不倫・淫行型	<b>青山学院大学不倫事件(11年9月)</b> 同大学の女子学生が、40代の会社員男性との不倫を実名・顔写真入りでブログに暴露し炎上。男性の勤務先、家族構成などの個人情報突き止められる
	<b>とんかつ店長事件(11年11月)</b> 群馬県の「とんかつ和幸」店長が、女子中学生・高校生の盗撮や自らの局部を露出した動画・画像をツイッターに投稿。懲戒解雇処分した後、わいせつ図画陳列の容疑で逮捕される

「友達候補」として表示されます。つまりこのシステムは、個人情報のお塊である電話番号の出身を、運営会社に教えることによって成り立っているのです。

かもしれない。「今のところ、SNSを起点とした炎上事件にはパターンがある。炎上を未然に防ぐには、過去の事例をまづ知っておくことが重要です」(前出・小林氏)  
半永久的に残り、不特定多数の目に晒されるSNSでの投稿。自分の個人情報はもちろん、他人の話も不用意に書き込まないようになれば、立派な炎上対策になる。大事なことは手紙や日記帳に書いてみるのも、たまにはいいものだ。それにしても、なぜ「炎上」は起こるのか。ある炎上事件のインターネット記事に寄せられたコメントには、こう書かれている。「炎上させる側は」別に正義で動いてる訳じゃないから社会的に正しいとか正しいのかはどでもいいんだよw/大半は「なんかおもしろいし、叩く為の材料も揃ってるし潰しとくかww」って感じだろww  
(注・wは「笑」の意)  
こんな匿名の悪意から身を守るには、SNSでも「大人」の自覚が大切だ。